

■ 現行ルールについての意見とりまとめ

指摘

『アウトになった選手が意図的に補給する行為』
チームへ警告イエロー 罰則7.2.2 について

経緯

●アウトになった選手が持っている雪球を無効球とした時期
(旧日連ルール)
細則ではその場に置く、事で無効雪球ではない



●そのためアウトになった選手が置いていった雪球を使用した選手までアウトにする判定事例があった。

●アウトになった選手が投げた雪球に当たってもアウトではないと細則には従来から表記

反応

①その場に置くから、変更指導もあり、当初、選手が戸惑うも定着する

②定着した感もあり、持って出る、を指導。

③置いていても、持って出ても良いという意味で細則から文言が削除された点逆にこれまで経緯があったため、選手は困惑

意見

④試合を止めてイエローを出すように指示が出ていた点について

●このルールにより試合を中断する事はリスタートとなり試合の展開を変えてしまうので回避して欲しい (チーム選手からの意見)

●一斉攻撃など他の選手の動作もある中で中断するタイミング、判断も難しい (相互審判としての意見)

1 アウトになった選手は雪球を持って出るにルール変更 (2016年)

2 翌年、持って出なかった場合に グレー その場に置いていく行為に対して チームへイエロー警告に変更 (2017)
※主催者判断で弾力的に適用可と記載

3 翌年さらに、意図的に補給する行為にチームへイエロー警告 (2018) に変更

4 意図的に補給する行為にチームへイエロー警告 (2019) その場で試合を止めて告知と当日指示。

②③④現在まで聞く限りルールが適用されたケースを誰も認識していない。
(道央審判、チームへ確認)
/直面したことが無い

評価

抑止力というより、机上のルールでは？



指摘

★この事例も適用となければならないのでは？

★スタート時、センターへ走る攻防の中でアウトコールを受けてもセンターまで走るケースが多いが、補給行為では無いのか？
試合中でも可能な補給方法である。

その他該当するとおもえる事例)

●自陣センターに1人、1シェルに1人の状況で1シェル選手が雪球を持ちセンターへ詰めたが1シェルから出たところでアウトコールを受けたが、そのままセンターまで走り、再びアウトを促され、雪球をセンターに置いてコート外へ出た

●バックスが走って1シェルまで持って補給する途中で被弾するも1シェルで球を置いて出る

次ページ

【意見からの提案要素の抜粋】

意見

- 基本的に選手は、その場に置いていくので 警告イエローをさほど意識していない。中断となると話は別。
 - 現行ルールで行くのであれば、アウト選手はその場に、雪球を置いてコート外へすみやかに出るが良い。
- 本来記載があったこの記載を復活することで、「その場に置いていく」が優先されさらに認識が高まるのでは。※日連も同じルールで警告の記載無し。
- 試合中の中断、警告は回避すべき。
 - イエロー対象が出た時点で、2枚目レッドでその場で試合終了になるケースなら途中で終了でも理解できるが、運営上のイエロー伝達や 審判は対応できるのか？
 - 雪合戦規則的に、「試合中に告知しなければならない」、このタイミングしかない、規則的に考えて行った結果、行き着いているだけではないのか。
 - これまでの経緯をみても何度も何度も、変更があり、紆余曲折してきているがもっとシンプルな考え方に転換すべきでは
 - ★「アウトになっても走って補給する事例」をルール適用とするかの可否で罰則ルールとしての考え方が変わってくる。
 - ①適用にした場合 →適用が増える。審判は正確な判定とアウト伝達が求められる。(選手は走っていて聞こえない)
 - ②適用ではない場合→記載内容の矛盾。警告ルール自体に無理があるということでは。アウト選手の補給行為を柔軟にとらえるルールに改定しては。

【考え方としての提案】

- アウト選手は最後に直近のシェルター、選手への補給を可能とする。
「してはいけない」から「出来る」にすればグレーな部分は無くなる。
- アウト選手は、すみやかにコートの外へでる。(強調)
補給できるとした上で、すみやかにコート外へ出なかった場合に遅延行為でイエロー適用の方が、わかりやすいのでは。試合を止める必要が無い。

他

- 昭和新山の大会が主催大会の頂点なのでローカルルール扱いではなく正式ルールとして定着していただきたい。
- 支部として意見をさせていただく事は構わないが、連盟から問題や課題となる点の提起を示してから、問題テーマへの意見を要請する方法が良いのでは。
「先に問題や課題のテーマを提示した上で、解決案や意見を求める方法」